

えんたのれんこん推進会議

～出会い系, 田んぼ～



徳島県吉野川下流域の鳴門市周辺は、日本でも有数のレンコンの産地です。ここでは、ハス田の伝統的な農作業・管理を通じて、地域の自然環境を維持しながら人々のつながりを築き、地域を元気にしていく取り組みが行われています。

背景 | 農業が育んできた、吉野川下流湿地帯の豊かな自然環境

吉野川下流には、16世紀頃に新田開発された粘土質土壌の低湿地帯が広がっています。レンコンの栽培にはこのような



鳴門市周辺のハス田と水路、伝統的な管理作業の風景

湿潤な粘土質土壌が適しており、徳島県は出荷量全国第2位を誇る、レンコンの一大産地となっています。えんたのれんこんの取り組みが行われている鳴門市津町の一帯もハス田が広がり、夏には一面白やピンクのハスの花が景色を彩り、一転大雨が降れば沼沢地のような環境です。

この地域では、今では全国的にも珍しくなった土水路(茅掘りの農業用排水路)が多く残っています。土水路やハス田内には湿地性の絶滅危惧植物が繁茂し、徳島県では絶滅したとされていた小型淡水魚カワバタモロコなどの希少な魚類や両生類など多くの生きもののすみかとなって、この地域の独特な自然環境を特徴付けるものとなっています。この土水路は、農家による「藻切り」「泥上げ」といった伝統的な作業によって、管理・維持されてきました。

経緯 | 地域の環境を支える農業の価値を見直す

土水路を維持管理するための藻切りや泥上げなどの作業は、農家にとっては、とても労力が必要で大変な作業です。この地域周辺でも、近代的な排水施設が整備されるようになり、農家の負荷は大幅に軽減されました。しかし、関心が薄れて適切な管理作業が行われなくなった土水路では、通水性が低下したり、水質が悪化したり、水田と水路の間を魚が行き来できなくなるなど、従来の環境が変化し、希少な魚類をはじめ、ハス田周辺にすむ生きものたちの生息が懸念されました。そのような中、徳島大学が実施したハス田周辺の生きもの

調査に地元のレンコン農家有志が協力したことがきっかけとなり、地域の自然環境とそれを育んできた農業の価値を見直し、安全な環境でつくられた農産物の大切さを伝えていこうと、平成20年にえんたのれんこんの取り組みを開始しました(推進会議の発足は平成21年)。「様々な生きものが息するハス田は、安全なレンコンをつくっている、という証明にもなる」。農家がそんな誇りを持って取り組む「えんたのれんこん」の活動は、地元の店や民間企業、行政など多くのメンバーが協力しあい、参加者の輪を広げてきています。

実施内容 | 体験型のレンコン栽培とあわせ、様々な交流イベントを実施

■ レンコン栽培の体験イベント

えんたのれんこんでは、協力農家のハス田を借り、地域内外の住民を対象とした、無農業者でのレンコン栽培の体験イベントを行っています。春先の田づくりから始まり、地域の環境を維持してきた伝統的な藻切りや泥上げ、草取りなどの農作業を経て、冬には収穫祭を行っています。田舟レースなどのお楽しみイベントも盛りだくさんで、参加者が楽しみながら自然と農業のつながりに触れ、その価値を学ぶための工夫がなされています。



藻切り

水路の泥上げ

田舟レース

■ 魚道づくり、生きもの観察会

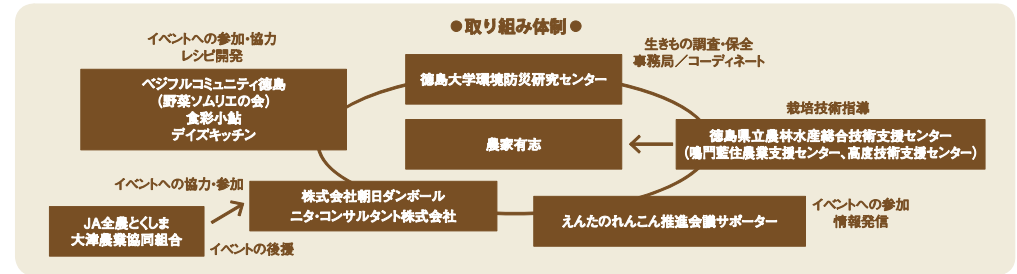
イベントの農作業体験の間には、ハス田周辺の生きものに親しんでもらいながら、伝統的な泥上げなどの効果を実感してもらうために、魚道づくりや生きもの観察会を行っています。水路に仕掛けた定置網には、フナやウナギ、モツゴやスズエビなど、多くの生きものが確認されました。



ウナギを捕まえる子供



水路の生きもの調査



成果 | ハス田から広がる人々と生きもの“縁”

■ 人のつながりの創出

えんたのれんこんの「えんた」とは、昔この地域にあった、水路と水田の間の半水没した水田(縁田)からとったもので、この活動が人と人をつなぐ縁のある田んぼになるように、と名付けられたものです。平成20年の活動開始から、ほぼ口コミだけで約3年間で約650名が交流イベントに参加しました。また、活動を続ける中で、様々な立場の個人・団体からの協力を得て、活動に広がりが出るようになりました。養われた人の縁・ネットワークが、活動の名前の通り、何より大きな活動成果として実を結びつつあります。新たなつながりができ、これまでになかった販路も開拓されるようになりました。

■ 生きものと人とのwin-winの関係

えんたのれんこん推進会議の事務局をつとめる田代氏(徳島大学特任助教)が、フナがいる水田とない水田と比較実験を行ったところ、フナがいる区ではない区よりも収量が多くなるという結果が出ました。引き続き、調査は継続中ですが、農家からは魚がいた方が色・形状がよい、魚が草を食べるため除草の手間が省ける、などの声があり、水田・水路に生きものがあることが農家のメリットになることを示せるのでは、と期待されています。



レンコンの収穫



魚道づくり